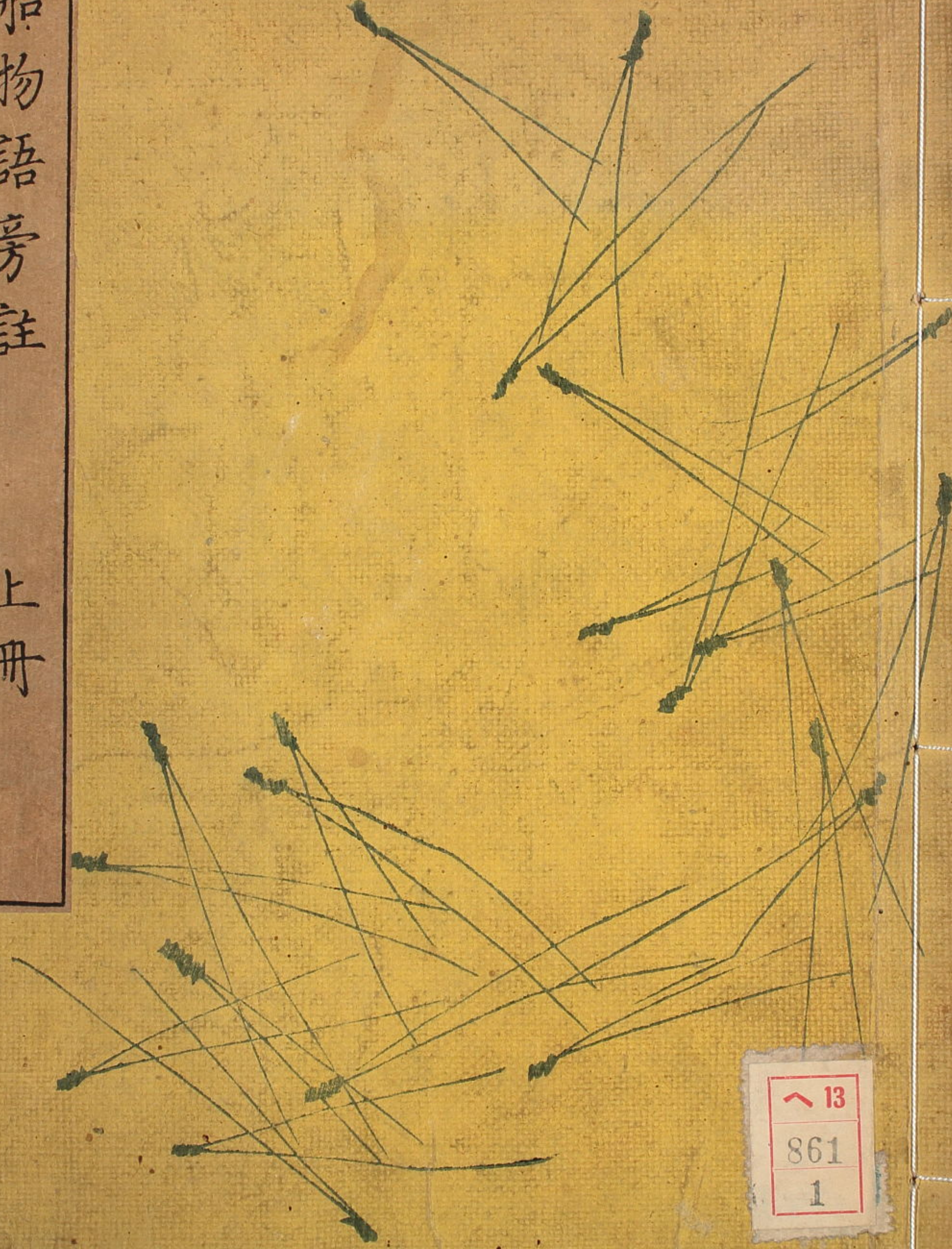




竺志船物語旁註

上冊



^ 13
861
1



織錦平春海先生遺稿
松屋源與清先生旁註

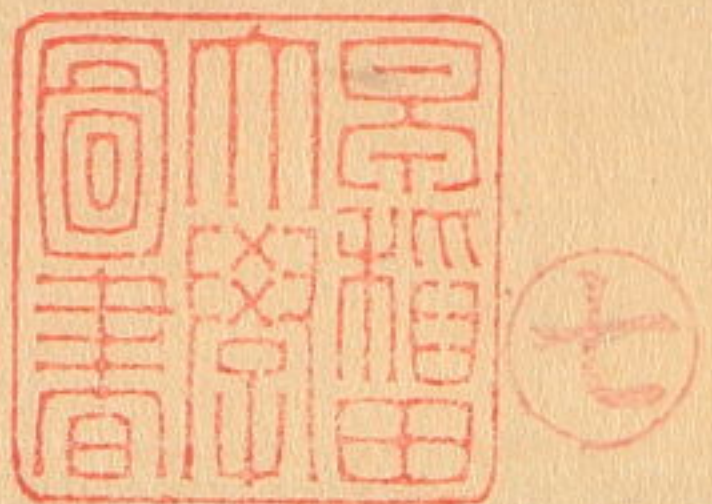
竺三志船物語

千鍾房梓行

竺三志船物語序

予少與平士觀友善。士觀長於予二十歲矣。曰稱忘年交焉。每相會。講編經史。商量詩文。時或及治道得失。人物臧否。未嘗知其精國學也。後聞論者之言。其於國學。傳賀茂真淵之說。博洽精確。有青藍之譽焉。予悅吾友有此博雅之人矣。既而又

門
號 861
卷 1



聞之。其於和歌。豐醜高妙。不愧古
之作者。與橘千蔭。唱大雅於閩東。
風靡一時。聲名藉甚。後進之士。
仰如山斗。予又悅吾友有此俊逸
之人矣。既而又聞之。其於和文。爾雅
巧麗。獨步于詞林之間。先吾古人。
後無來者。蓋今古一人也。予又大悅
吾友有此一代之偉人矣。唯恨予於

國學。毫無知解。則予祇士觀。同
于矮人觀場。隨人喝采耳。雖然。
毛嬙西施。天下知其為姣麗之人
矣。蘇秦張儀。天下知其為雄辯之
士矣。莊周左史。天下知其為能文之
人矣。顏淵曾子。天下知其為德行
之士矣。與天下之人。同其見。同其言。
謂之公論。又得之正議。然則予之

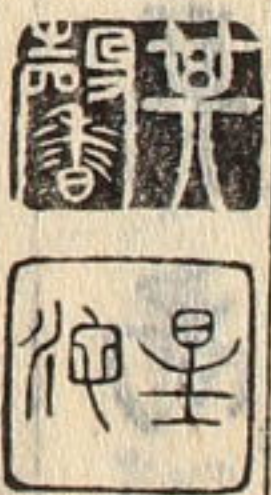
稱士觀。謂之公正。亦可矣。若夫惡
人之所好。人之所惡。非人禍身者。古
人所戒。予亦不敢也。士觀沒數年。其
門人高田文儒刻其師所著竺志
舛物語者。向序於予。予閱之。是世
所謂物語者。而被傳弄小說之類
耳。是豈足罄士觀之蘊乎。雖然。
古人有言。嘗鼎一臠。全鼎可知也。

此編雖區區之不足。以窺文真家之錦
心繡腸。發為梨花嚼麝之徒。天
下之人自有眼識。又何假予之贊
乎。文儒敏俊。好學。務尚恢博。瀏
覽不倦。能奉其師說。又一時之
才人也。嗚呼。士觀逝矣。人琴俱亡。
韓公有言。思李元賓而不見。元
賓之所與者。則猶如元賓焉。予之

於文儒亦然。

文化甲戌仲春甲子友人吉田
儒負加賀大田元貞才佐文揆

星池秦具齋書



Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '天下有瓌奇之才'.

祇希鑄字

序三

天下有瓌奇之才。能收瓌奇之事。著
為瓌奇之文。讀之可駭可哭可快可
笑可恨。至使人扼腕噴飯吐之不止。
作者之心非有七竅。目則橫而鼻則
豎矣。忽出此神通力。抑亦可畏也。史
記以跌宕之筆。簸弄今古。自是絕世
伎倆。但曰事生文。事猶在彼。至水滸
則一片腔子捏出無限瓌奇之事來。
文之與事。併兩屬我。縱橫變幻。鞭馳

造化雖正稗不同。工夫將倍古之人矣。我邦古不乏麗藻。而構虛之文別出新裁。才實足抗衡水滸者。唯源氏物語一書為然。其文波瀾蕩漾。雲騰山崩。筆底無復毫髮遺恨也。水滸以後稗史小說殆將充棟。吾讀深厭之。源氏以後物語草紙不下數家。吾亦不肯觀。近與高田文儒通交。文儒持竺志船物語者來示曰。是平春

海翁之遺文也。請一覽見序。余破格讀之。恍然自失。敷藻之絢。此豈在源氏之下乎。翁之在世。里居相接。然翁蒲柳善病。余亦衣走食奔。相見太罕矣。翁之於國學和歌。一時推為翹楚。吾亦不意其行文之妙。至於如斯也。翁龍鍾一禿。對客如怯。而胸中所貯。奇。怪。殆不可端倪。人之可畏。果然如此。初謂源氏以後。我邦無

奇書者。余之固執也。使余之固執立
解者。文儒之賜也。今已拜賜。謹以奉
還。甲戌暮春之初五。山池桐孫題。

池永觀之書



此書之奇。余之固執也。使余之固執立
解者。文儒之賜也。今已拜賜。謹以奉
還。甲戌暮春之初五。山池桐孫題。

はくし船

氏を慕ふよそ、大井は之信といふ人いまそ
ありけり、そのやえいとの賢、さうよはるがよ
おと、物、たまひをまじ、年
まごころはたぬほごなれよ、き傍乃
かきよて、宰相よさくねをす、世におぼ
えや、^{上車無}ゆくす急いとの、人も
くろよせま、おと、をた、ひとのあや、
病、酒をさうよ、はる、

凡例三

乃へうたてまつしんのかほらうりよてよらう
表奉
此まつりごもよまよまらうたあ
政
とご痛よこまのせしりこりてめおん
託
今ハ世れ仲のりご若乃おとのほら
自
なりけおんしんらうあうご
若
位のまとおちの師とらあひし
書
よまのよこもまらうご
諸共
無隔心
あひぬれあうらう
好
そハ清くたれさのえなぶ人あう
榮

ほらてもこのまのかくまらう
埋
すまのしんらう
勞
ふれてハあまのあまえ孫とらも
依約
年らうかくまよまらう
年らうかくまよまらう
バ中よんあまのいよひなり
替
もまらうらまらう
清々
てすまらう
太宰
帥
關
して清く
奏

蓬蒿 下 空 朽 果 志
 七
 立 起 類 切 立 男 子 切 說

救 賑

都をさうりしはしりてあはれなる人
千里浮岩の海にわたる
とまはるるはしりてあはれなる人
らんよ、何うもなれ侍らん伴時りて
清みれ世よあはれん願わづら
あはれなるはしりてあはれなる人
しりてあはれなるはしりてあはれなる人
いらぬもあはれなるはしりてあはれなる人

くみりしはしりてあはれなる人
たのしみ涙の會はしりてあはれなる人
たのしみ涙の會はしりてあはれなる人
物あはれ忌々はしりてあはれなる人
のしみ端の會はしりてあはれなる人
てもあはれ此度はしりてあはれなる人
どしりてあはれ甲はしりてあはれなる人
のしみ受領の會はしりてあはれなる人
るのしみ別の會はしりてあはれなる人
諸官上

このよふしをきりぬいて、童下づのひなご
までよろくどもあまのこづけあふあひのしきよ
ゆりあひぬ祿おとぎ年比のほいこるあひりそ
よろこびあひて大臣よぐいさろんよまひりり
ぶるひてれ後もういそあるさほよまあぬ
を、酒鬼とらひいて別様世の人れあさほりうとり
あすこそ、物いさぶたきいさぶあれ昔いさも
こそういそ、何りつめ、今いあひいあひ
ぬめれ別様ぬれうりやすいそそのあひんれ。

年ごとよ秋あさの雪の花らんよいで、出立あ
まんどいさひんりあひんのはいさまよま
ぎれてあぼい毛たぬを、まといりあひんほ
ともなるこのあひら、れ秋よよとてよあれ
よののいさぶ、撩姫あよもつてねてひんり
法車連よそいであひり、夕のげあひのいさほと
よひてあひるめ花どもれあようちあひ
たる中よ、可憐あひりよあひりよあひりよあひりよ
法こいあひりよあひりよあひりよあひりよあひりよ

そられ君。

まことのゆん秋もちぎし〜
たもこよほりせ秋が花づまを花の風よ
たのびををらんあひて、山のこゝ

初と花なよほめくらん秋のよよと
著 招 留
つ本さけるよ、姫君。

秋は望のちんはらなれをみたく〜
千草
やき〜やしのぞひらり〜
耻

あ〜れねなご〜
虫 聲
おやす年ごらり小方のごらん〜
願 立
お、法師のえわのれつげな〜
ある法師よまう〜
たのこの〜
どろり〜
れ物うま〜
た〜
法〜
答

